

2016年 世界展開力強化事情 短期留学プログラム帰国報告書

農学部 農学科 2年 浅野 宏輔

1. 当初の目的

私が今回の短期留学プログラムに参加するにあたっての目的は2つあります。第1に、東京農業大学だからこそ体験出来る事を入学当時からどんなことでも積極的に挑戦しようと考えていました。色々なことに挑戦することで自分の視野を広め、自分を見つめなおし、私にしか出来ない一生の仕事(人生の目的)を具体的に見つける事ができればいいなということでした。

第2に昔から海外に興味があり、他国の農業形態を実際に目で見て体験して日本とは気候、規模、歴史、文化の違うところでの農業を現地の方から勉強したいことです。

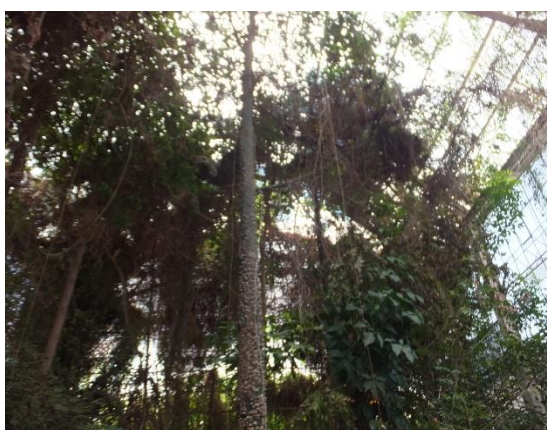
2. 現地での活動内容

現地の活動内容は、2月11日にチャピング大学を訪れチャピング大学の留学担当であるアンヘリカ先生と今後の日程について話し合いました。説明はすべて英語であり私は英語に自身がありましたが、メキシコ人の英語はスペイン語特有の巻き舌を使った英語が少々ありそれらの英語のスペルを理解するには苦労しました。その後はチャピング大学の学生であるDavisさんLuisさんとチャピング大学の施設を紹介してもらい、2人には施設の説明してもらおう以外にも日本の事についていろいろと質問されました。自分の英語がうまく伝わらない時にもジェスチャーなどを使い理解してもらえました。実際に現地の学生とコミュニケーションをとれたのはとても刺激があり意思疎通ができたのは私にとって大変な自信になりました。

チャピング大学は1854年に開校し農学関係の学科が22学科存在しており、敷地面積は300haもあるので学生たちは主な移動手段として車や自転車などを使っていて驚きました。



農学科の建物



植物園

私が印象に残った施設としてチャピngo大学が管理する植物園でありそこでは食用のポテンであるウチワサボテンや耐寒性、耐陰性ともに強くどんな環境でもなじみやすい強健さを持ち樹液から天然ゴムを採取することができる通称名「ゴムノキ」と呼ばれるマルバインドゴムノキなどメキシコで有名な植物や動物が育てられていて実際に見たり触ったりできたのはとても勉強になりました。他にもさまざまな施設(図書館、教会、付属の高校、運動場)など見学しました。どの施設も最新の設備が用意されていて学生たちは自分が勉強したいことに集中して取り組めると思いました。

2日目はチャピngo大学で日本語の授業を履修している学生10人と日本とメキシコの文化についてディスカッションをしました。学生はみんな英語を話すことができ、なかには日本語も少々話すことができる学生もいたので驚きました。みんな日本について興味があり例として日本の電化製品や車、伝統文化などがあり特にアニメは大変人気でした。その中でもジブリのアニメはクラスの全員が知っていて改めて日本のサブカルチャーは世界に誇れるものだと感じました。また日本のフェニズムや同じ日本語でも相手の年齢や立場によって使い分けが必要なことを教えると驚いていました。

13日～14日にかけて農大のOBでチャピngo大学の教授をしている穂積先生の案内で標高が約2000メートルのプエブラ州山岳地帯の零細農家を見学しにいきました。初めにバナナの有機栽培をしている零細農家を訪れましたがバナナだけではなくコーヒーと一緒に栽培する混作がおこなわれていました。その理由としてバナナは背丈が高く葉が大きいので日影ができやすい(シャドーツリーと呼ばれる)作物であり、コーヒーは日影を好む作物なのでバナナとコーヒーの輪作の相性がよくそれ以外のメリットとして、プエブラ州は台風が多い地域なので台風によりバナナの木が倒されてしまってもコーヒーを収穫することにより収入が全く無くなってしまふことを防ぐことができます。また違う時期に収穫することができる作物同士を組み合わせることにより1年で複数回収入を得ることができます。私が見たものでバナナの木で実がなったものには袋掛けが行われていました。その理由をきいてみると日の当たりすぎや、鳥が実を食べるのを防ぐためだそうです。また袋掛けをしたものはしなかったものと比べて実が約2キロ程大きくなりやすいそうです。そしてバナナを収穫すると収穫された木は切り倒されてしまうのですが、根本から1メートルあたりを切り倒すことにより、切られた株が吸収していた水分を子供の木に送るポンプのような働きをします。また木を切ったときの切口も斜めにするにより寄生虫が滑り落ちてしまうため切口からの侵入を防ぐことが



できるそうです。このように栽培をする過程で多くの工夫が施されていました。また日本も台風などの自然災害が多い国なので日本でも栽培が可能な混作の組み合わせがないか考えたいと思いました。他には穂積先生と零細農家の人たちが一緒に研究しているバイオガス発生装置を見に行きました。バイオガス発生装置とは僅か8立方メートルで大きめの押し入れほどの大きさの強化ビニール製のバイオガス発生装置を地中に設置するものであり、



家畜糞尿などの有機物を嫌気性微生物の働きによって分解・発酵させバイオガスを得ることができ、それ以外にも発酵分解した糞尿を液肥としても利用することができます。私が見学をした零細農家は発生したバイオガスを台所のコンロに使用していて、農家の方が「ガスよりも、発酵分解した後が、液肥として役立っています。液体なので植物の吸収が早く、発酵期間中に寄生虫も死滅しているから安心。においもほとんどないそしてガス代や肥料代の節約もできる」と話していました。この強化ビニールを用いるバイオガス発生装置は、企業が販売しているバイオガス発生装置よりも設置費用が安く設置が簡易なので、多くの零細農家から設置の要望が来ているらしいです。そして私が訪れた零細農家のほとんどの人たちが常に向上心を持って農業をしました。説明をしてもらっている時もバナナの袋掛けを見せてもらったりオレンジの収穫、メキシコの伝統料理を振舞ってもらうなどとても親切にしてもらいました。他国の農業形態を実際に見ることができたのはとても良い経験になりました。

16日はチャピング大学の講義をいくつか実際に体験しました。講義内容は野菜栽培学や灌漑学、実習では花卉栽培学について学びました。授業は全てスペイン語であり内容を理解するには苦労しましたが図やグラフを見て可能なかぎり理解しようと努力しました。実際に授業を受けてみて感じたことは、日本の大学とは授業のシステムが全くちがうところです。日本の大学の講義は生徒が大人数に対して教授が1人。授業に自分からコミットすることはほぼ無く黙って聞いてノートをとるだけですごく受動的ですが、チャピング大学の講義は少人数制であり講義中に発言や質問をする人が非常に多く教授と学生との対話型の授業スタイルでした。授業後に学生から聞いた話ですがメキシコでは受け身で授業を受けているだけではやる気がないと評価されるのは普通で課題の量も多く日頃からしっかり

勉強しなければいけないことです。私は日本の学生をメキシコの学生を比較してみて、やる気や将来に対する意思や好奇心が薄いような気がするのと単に学習スタイルや教授法が違うというだけではない根本的な問題を感じました。その後は私たちが暮らしている学生寮に先程の学生たちが訪れ、昼食にメキシコ料理で有名なカカオに数種類の唐辛子、シナモン、クローブなどのスパイス、トマト、玉ねぎ、パン、ナッツ、バナナ、レーズンなど 20 種類以上の材料を混ぜ合わせた「モーレ」と呼ばれるソースを使った料理を振舞ってもらいました。チョコレートの甘さを楽しんだ後に、唐辛子の不思議な辛さがありとても複雑な味わいでしたがクセになる味でした。実際に現地の人々が食べている料理見て食べることができたのはとても良い体験でした。



鶏肉にモーレをかけた料理

19 日からはチャピngo大学から離れメキシコシティで日本食を販売しているスーパーである MIKASA を訪れました。MIKASA を経営しているのは農大の卒業生である土屋さんという方で、土屋さんとお話している中で現在のメキシコの経済状況や多くの日本企業のメキシコ進出が進んでいること、若い頃からグローバルな考えを持つことの重要性について詳しく教えてもらい、将来自分がやりたいことや職業を考えるのにとっても参考になりました。その後はメキシコで日本の農作物を有機栽培していて農大の卒業生である鈴木さんの農場に行きました。大根やトマト、ネギ、サトイモなど様々な作物を栽培していましたが、メキシコの気候は気温差が激しく日本とは違うため栽培が難しいと話していました。鈴木さんの農場は有機栽培を行っているため病害虫の防除のために農薬などの化学的防除は極力利用せず、光を利用するシルバーテープなどの物理的防除を利用していました。それ以外にも今後新たな防除法として病害虫の天敵およびフェロモン剤を用いる物理的防除を利用することを考えているらしいです。斎藤さんも環境の改善や安定した栽培を実現するために常に勉強をしさまざまな対策をしていました。

3. 目的達成度の自己評価

今回のメキシコの短期留学でチャピngo大学の学生たちと積極的に英語で交流をすることができたのはとても良い経験になりました。またメキシコの零細農家たちの農業形態を実際に見ることができたのと様々な質問をすることができたのは今後の研究内容を決めるのに参考になりました。語学と農業の両面を学ぶことについて頑張れたとおもいます。

4. 今後の取り組み

私は将来海外の農業関係の仕事に就きたいと考えています。チャピngo大学の学生との交流では少々自分が伝えたいことを英語でうまく伝えることができないときがあり悔しい思いをすることがありました。そのことから将来のことを考えて語学力の向上、特に TOEIC の勉強を始めたいと思いました。

5. プログラムに対する要望

- ・学生寮の部屋の電球がきれてしまったときに、電球の交換を伝えたのだがなかなか改善されず他にも対応が悪いところがありました。

- ・チャピngo大学の授業内容や時間などがスケジュール通りに行われず農大とチャピngo大学の事前の連絡不足を感じるがありました。